



RSウイルス感染症が増えています 乳幼児・高齢者は要注意！

令和3年6月23日
富山県感染症情報センター
(0766-56-5431 直通)

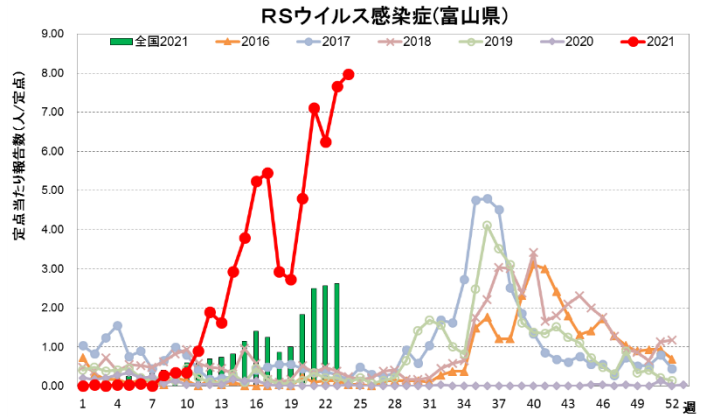
感染症発生動向速報

(令和3年第24週分・6月14日～6月20日)

《インフォメーション》

●RSウイルス感染症

今週、県内のRSウイルス感染症の報告数は、定点医療機関当たり7.97人となり(図参照)、過去10年で最も高い状況が続いています。県内の症例のほとんどが3歳以下の乳幼児であることから、幼稚園や保育所などの集団保育、家庭内等で感染が広がっていることが推定されます。全国のRSウイルス感染症の流行は、2016年頃から夏から徐々に増加し、秋にピークを迎える傾向がありました。しかし、今年は1月から報告数が増加した九州地方を始め、西日本を中心に季節外れの流行が拡大し、例年とは全く異なる流行パターンを示しています。現時点で、富山県の報告数は全国的にも3番目に多く、県内では高岡医療圏での流行が顕著になっています。



RSウイルス感染症は、RSウイルスを原因とする急性呼吸器感染症です。乳幼児の肺炎の約50%、細気管支炎の50～90%がRSウイルスによるとされています。主な感染経路は飛沫感染と接触感染です。感染から4～6日の潜伏期間の後、鼻汁、咳、発熱などの上気道症状が認められます。6ヵ月未満の乳幼児では重症化しやすく、重症例では入院治療が必要となります。成人では上気道の感冒様症状のみで自然軽快することが多いですが、海外の報告では高齢者や慢性呼吸器疾患、心疾患などの基礎疾患のある成人では重症化するとされています。一方、現在、有効なワクチン、抗ウイルス薬はないため、新型コロナウイルス感染症と同様、日頃から手指消毒やマスクの着用といった基本的な感染対策が求められます。

低出生体重児や免疫異常、心臓疾患などの基礎疾患がある乳幼児に対しては、ヒト化抗RSウイルスモノクローナル抗体であるパリビズマブを事前に投与することで、RSウイルス感染症の重症化予防が期待できます。詳しくはかかりつけの医療機関へご相談ください。

《全数報告の感染症》

- 新型インフルエンザ等感染症 新型コロナウイルス感染症 52件
- 二類感染症 結核 3件 (①第23週診断分：70歳代、男性 ②60歳代、男性 ③80歳代、男性)
- 三類感染症 腸管出血性大腸菌感染症 1件 (第20週診断分：20歳代、女性、O111、VT1)
- 四類感染症 レジオネラ症 2件 (①50歳代、男性、肺炎型 ②60歳代、男性、肺炎型)

《定点報告の感染症》

今週の県内上位6疾患

順位	疾病名	定点あたりの数	
		今週 (増減)	先週
1位	感染性胃腸炎	11.93 (↑)	4.00
2位	RSウイルス感染症	7.97 (↑)	7.66
3位	咽頭結膜熱	0.41 (↓)	0.66
4位	突発性発しん	0.34 (↓)	0.52
5位	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.21 (↓)	0.41
6位	無菌性髄膜炎	0.20 (↑)	0.00

※感染性胃腸炎の急増について
第24週に富山市内で発生した集団食中毒事例の患者が、医療機関で感染性胃腸炎と診断された影響であり、県内における感染性胃腸炎の流行が広がっている状況ではないと推察されます。

○感染症発生動向調査報告状況（令和3年第24週 令和3年6月14日～令和3年6月20日）

分類	疾患	今週報告分（第24週）						累積報告数（令和3年第1週（1月4日）～）							
		新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計	新川	中部	高岡	砺波	富山市	その他※1	計
新型インフルエンザ等感染症	新型コロナウイルス感染症	13	9	2		28		52	111	128	355	65	746	32	1,437
二類感染症	結核			1		1		2	7	3	19	9	19		57
三類感染症	腸管出血性大腸菌感染症										3	1	1		5
四類感染症	E型肝炎								1				1		2
	つつが虫病								1						1
	レジオネラ症			2				2		1	5		1		7
五類感染症	ウイルス性肝炎								2						2
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症										1	1	1		3
	急性脳炎										1				1
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症										1		1		2
	後天性免疫不全症候群								1				1		2
	侵襲性インフルエンザ菌感染症										1	1	1		3
	侵襲性肺炎球菌感染症								1		1		10		12
	水痘（入院例）												1		1
	梅毒								1	1	3		12		17
	播種性クリプトコックス症												1		1
破傷風										1				1	
定点疾病 (下段は定点当たりの患者数を示す)	インフルエンザ										5				5
	RSウイルス感染症	4	2	184	11	30		231	92	104	861	42	710		1,809
		1.00	0.67	23.00	2.75	3.00		7.97							
	咽頭結膜熱	1	1	4		6		12	22	28	119	2	81		252
		0.25	0.33	0.50		0.60		0.41							
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2	1	3				6	56	32	418	75	177		758
		0.50	0.33	0.38				0.21							
	感染性胃腸炎	15	11	23	19	278		346	458	231	323	163	927		2,102
		3.75	3.67	2.88	4.75	27.80		11.93							
	水痘			1		2		3	1	6	18	5	24		54
				0.13		0.20		0.10							
	手足口病			1				1	2		10	1	5		18
				0.13				0.03							
	伝染性紅斑									1	5	1	12		19
	突発性発しん	2		4	1	3		10	33	17	86	36	74		246
		0.50		0.50	0.25	0.30		0.34							
	ヘルパンギーナ		1	1				2	16	1	1		1		19
		0.33	0.13				0.07								
流行性耳下腺炎					1		1	2	2	5	3	4		16	
					0.10		0.03								
流行性角結膜炎									1					1	
細菌性髄膜炎												1		1	
無菌性髄膜炎					1		1					2		2	
					1.00		0.20								
マイコプラズマ肺炎										1	7	1		9	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）								1						1	
インフルエンザによる入院患者（※2）											1	8		9	

本週報のデータは速報値であり、今後、調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがあります。 ※1 その他は県外、居住地非公表分です。 ※2 インフルエンザによる入院患者累計報告数は、令和2年第36週(8月31日)～の集計です